

同人森下君の長逝を悼む

本誌同人 (イロハ順)

西部 石井健太郎

林成 秀雄 岡田道一

友成 瑛一 奥村彌一

大西 重孝 緒方晴逸

太宰 施門 大田山一

武智 鐵二 川口金次郎

高木 善次 川崎金次郎

竹村 幸次 河野金次郎

辻部 圓三 高橋作太郎

中野 孝一 中川愛氷

成瀬 無極 内田富太郎

黒田 重平 山田信平

山本 修二 松尾幸次郎

藪田 和一 藤牧玄雄

松永 佛一 是澤九郎

藤田 永斗 箕浦三郎

鴻池 幸武 平山富太郎

水野 康孝 平井眞次郎

新良 貴健 二

悼同人森下辰之助先輩

岡田蝶花形

これはこれ我が一生に君の事書く最後かと天になげくも。
大阪へわがゆく事を樂しみとせられし君も遂になしとや。
斯くてわれ今大阪へ行き度くなし文樂あれどその他もあれど
その道の先輩森下辰之助、遂に逝くとや事變記念日。
袖摺るも深き縁ぞ、まして君同じ誌に説く同じ趣味をば
「押立て」の我説を深くよしとして君述べてしや言傳聞きけり
腸を病むときゝ速達わがつくる藥送りしが間に合はぬ愛し
君の計のハガキ来る前夜橋本の津大夫評を讀みふけりけり。
この深き造詣の君に再びと逢ふべくあらず絶筆の評。
君主唱われ賛成の「三マク道」君の記念に流行せたくも。
君の遺志を我等同人受けつぎて惡しきを突かん淨瑠璃筆陣。
君は豪し、淨瑠璃雜誌に喝入れて弱き樋口を助けしも功德。
しかはあれ、これより益々筆陣を敷かん中途に倒るるは惜し。
正義折れぬこれより愈々外道淨瑠璃時を得顔に跋扈せんはや
遂に一度も逢はぬ君ながら、千年の知己たる如し筆技通ずも
後顧たる恐れなれどいささを我れの恐るゝ雜誌の前途。
もとよりも同人多し根が一本竹なればてふ力合はすも。
訃報来るは何とせん悲しやと頓生菩提と電報うつなり。
天にして津大夫評に耳すまさむ必ず心して語れてふ。
冥土にて君を迎へん法善寺さては團平廣助のやから。